

8/6 (金) 地域を明るく!七夕飾り

片岡公民館で、シニアクラブ「片岡長生会」が旧暦の七夕にあわせて笹竹に飾りつけを行いました。この活動は、新型コロナの感染拡大が続くなか、地域に明るい話題をと昨年に続き実施されました。今回は、片岡小の児童や地元保育園の園児など約350人分の短冊が集まり、会員の手で飾りつけされた笹竹は公民館の入口に設置されました。大類会長は「コロナが収束して、再び地域で楽しく交流する機会を取り戻したい。この願い事が一日でも早く叶うよう、思いを込めて飾りつけをした」と話していました。



8/14 (土) 感謝の思いを言葉に込めて

本年度をもって閉校となる豊田小学校で、地域の方たちや卒業生などに想いを書き残してもらおうと、メッセージボードを設置しました。この日は、あいにくの天気にも関わらず100人近い方が訪れ、「思い出をありがとう」などと感謝のメッセージを寄せていました。新型コロナの影響で残念ながら校舎内の開放は見送られましたが、訪れた方は旧友との再会や窓越しに校舎を眺め、当時にタイムスリップしたかのような時間を楽しんでいるようでした。



8/19 (木) 安全安心な道に向けて

県道下河戸片岡線(片岡地区)、国道461号(倉掛地区)で、「とちぎの道現場検証」が行われました。道路関係者(矢板土木事務所・警察・市)と地元区長が参加したこの日は、交通渋滞の緩和を目的とした都市計画道路(大谷津通り)の建設計画の状況や、道路両側の樹木の繁茂による冬季期間の路面凍結についての課題を確認し、今後の整備や改修の必要性を共有しました。区長からは「地域の安全安心のために、関係機関が協力して取り組んでもらいたい」との声がありました。



8/20 (金) 国の表彰記念で寄附

(株)格和測量設計様から50万円が寄附されました。この寄附は、格和 功取締役が、国交省関東地方整備局の「優良業務および優秀技術者局長表彰」を2年連続で受賞した記念に行われたもので、市政に役立ててほしいと昨年に続き寄附をいただきました。齋藤市長は「市内企業がこのような栄誉を受けるのは本市にとっても大きな誇り。今回は、市内道路の維持管理に関わる市民活動の貸出備品の充実のために活用したい」と感謝を述べました。



▲(右から) (株)格和測量設計 格和 功取締役、格和 弘代表取締役社長

8/20 (金) おうち花火で夏の思い出に

(株)フィデスと(株)格和測量設計が、子どもがいる家庭に手持ち花火を配布する取り組みを行いました。この取り組みは、コロナ禍で我慢を強いられている子どもたちに、少しでも楽しい夏休みの思い出を作ってほしいと企画されたもので、両社は手持ち花火の配布場所の1つである市役所を訪れ、齋藤市長に200セットを手渡しました。後日、花火を受け取った兄妹から「花火がきれいで楽しかった。夏の思い出が1つ増えてうれしかった」との声がありました。



▲(右から)
・(株)フィデス 千野根 友和 CEO
・(株)格和測量設計 格和 弘代表取締役社長

8/27 (金) 安全な通学路の確保に

市内の通学路で、矢板土木事務所・矢板警察署・学校・市などの関係機関が参加して緊急合同点検を実施しました。これまでも「矢板市通学路交通安全プログラム」に基づき毎年、合同点検を行ってききましたが、今回は千葉県八街市での下校児童が死傷する交通事故を受け、各小学校で危険箇所を再調査し、新たに報告された狭い歩道や通行車両から見えにくい横断歩道などの確認を行いました。点検を行った村上教育長は「子どもたちの安全な通学を確保するために連携して改善に取り組みたい」と話しました。



9/1 (水) 木材の安定需給に向けて

市役所で、市林業・木材産業成長化推進協議会の構成員である市内5事業者と市が、木材の安定需給に関する協定を締結しました。この協定は、矢板地域の森林資源の持続可能な利用推進を目的としたもので、今後は伐期を迎えている人工林の主伐と再造林に向けて積極的に取り組むことや、伐採された丸太を製材工場が安定的に受け入れる体制の構築を目指します。齋藤市長は「この協定締結を契機に、本市が林業や木材産業の先進地となる第一歩としたい」と話しました。



▲(右から) 高原林産企業組合 白石 盛道代表理事、たかはら森林組合 江連 比出市代表理事組合長、齋藤市長、(株)トーセン 東泉 清寿代表取締役社長、(有)マルハチ 渡邊 久男代表取締役 ※(有)東泉林産 東泉 喜之代表取締役は欠席

基本的な感染対策を徹底しましょう!

